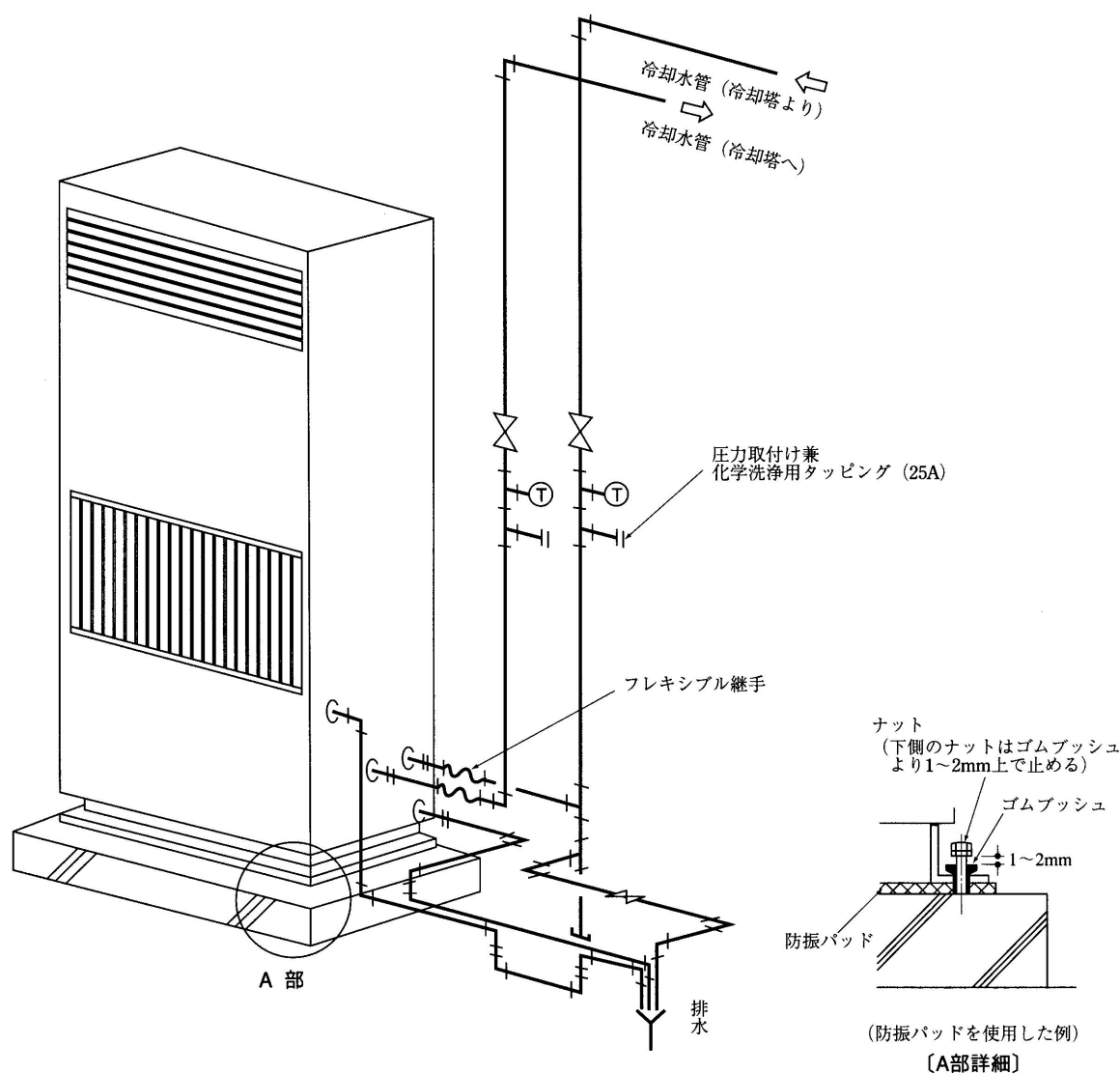


P-40	パッケージ型空調機の据付け	単位 mm

施工方法



留意事項

- ① 機器内部で圧縮機・送風機の防振が十分考慮されている場合、および設置上防振を考慮しなくてよい場合はアンカーボルトで直に固定する。(防振材不要) 防振を要する場合、アンカボルトは防振材を介して取り付ける。また、アンカボルトが機器側と接触しないようにゴムブッシュを入れて取り付ける。アンカボルトのみでは転倒のおそれがある場合、機器本体の骨組(アングル)から、壁に繋ぎ板を設ける。
- ② 木台を使用する場合、床コンクリートまたはコンクリート基礎に緊結する。
- ③ コンクリート基礎の高さは、排水トラップおよび蒸気トラップの納まりから決定する。また、機械室床面の水による腐食および機器へのごみの堆積を防ぐため、最低の高さを100mmとする。

- ④ 配管自重および伸縮による応力が直接機器にかからないようにする。
- ⑤ 冷却水管にごみが入るおそれがある場合には、配管途中に必要な応じてストレーナを入れる。
- ⑥ 上部、下部二つのドレンをまとめて排出する場合は、上部ドレン管と下部ドレン管との連絡は必ず下部ドレン管より低い位置で行う（下部ドレン管より溢れることがある）。
- ⑦ 室内露出の場合（排水も室内で大気開放）は、排水トラップは不要である。
- ⑧ 暖房用に温水コイルを取り込む場合は、冷房運転時の凍結破損を防止するためにコイルの水が完全に抜けるようにする。